

ナラティブにおける仕事の意味、社会的地位と不安定性の 意味づけへの影響

渡辺ミルバ（東京大学大学院 教育学研究科）

本発表は、仕事の「意味」についてのナラティブアプローチでの事例研究である。本発表の事例研究は、具体的な人物のナラティブを手がかりとして、仕事に与えられた意味を浮き彫りにし、生活状況や不安定性の認識、社会的地位などの他の複雑な要因が、これらの意味にどのような影響を与えたかを多面的に析出させるものである。

仕事の意味について、様々な先行研究がされてきた。まず、仕事は生活賃金だけでなく、社会的関係、地位、挑戦、自己実現の機会を提供すると指摘されてきた¹。さらに仕事の位置付けについても、「ただの仕事」、キャリア、天職のいずれかに分類することができる²と研究されてきた²。ナラティブアプローチによる研究では、仕事は、客観的キャリアと主観的キャリアの形で、二重の性質を持つとされている³。すなわち、キャリアの定義や意味づけは、一方では教育や仕事に関連する客観的な制度と関連し、他方では個人のキャリアに対する主観的意味づけと関連している。

本発表では 2020 年に実行されたインタビューの逐語的な文字化を分析する。研究方法としてはナラティブアプローチを使用し、インタビュイー（以下エマ）が仕事に与える意味、そして社会的地位および本人が経験した不安定さがその意味づけに与える影響を分析している。エマは 40 代の既婚の女性で、成人の子供が 2 人いる。エマはソビエト連邦で生まれ育ち、ソ連崩壊後フィンランドに移住した。様々な業種での仕事の経験を持っており、無給で搾取された経験についても語った。エマのナラティブの分析を通して本発表は、先行研究で指摘されてきた仕事の意味づけを再検討する。

参考文献

1. Baruch, Y. (2004). *Managing careers: Theory and practice*. Harlow: FT Prentice Hall.
2. Wrzesniewski, A., McCauley, C. R., Rozin, P., & Schwartz, B. (1997). Jobs, careers, and callings: People's relations to their work. *Journal of Research in Personality* 31, 21-33.
3. Komulainen, K. & Sinisalo, P. (2006). "Mulon amerikkalaisten työajattelumalli": Itsensä työllistävien naisten urakertomukset ja yrittäjäminä. (「私、アメリカ人のような仕事観を持ってる」: 自営業をする女性のキャリアストーリーと自営業者としての自分) *Työelämän tutkimus – Arbetslivsforskning* (『ワーキングライフ研究』) 3, 149-159.